

V 保護者が管理・活用する個別の支援計画の開発 ～神奈川県三浦半島（横須賀地区）学習会の取組

1. はじめに

一年目（平成15年度）の研究成果から明らかになった、以下の三つの仮説に基づいて実践をはじめた。

- (1) 本人や保護者が、自分自身の「個別の支援計画」を作成する過程（プロセス）を重視して、作成する書式や、関係者間や保護者同士の協議に「前向きな発想」や「地域の広がり」などを仕組むことで、支援計画の本来の目的（自らの豊かな生活＜Q.O.L.＞の実現）に向かうことを目指す。
- (2) 当初から本人や保護者が自らの情報を管理し、必要に応じて調整しながら情報を提供する習慣は、これからの障害者施策（自立支援法等）で求められるであろう、自らの情報を管理すること（自己管理能力）に結びつく可能性がある。
- (3) 上記のために専門家の仕事は、本人や保護者が円滑に「個別の支援計画」を作成、活用することができるよう支援することが第一の目的であり、求められた情報をニーズに応じて分かりやすく提供し、必要に応じて「前向きな発想」や「地域の広がり」につながるような仕組みを作ることであると考える。

2. 方法

仮説の検証に向けて、本研究所で著者の教育相談を受けていた保護者の方を中心にした「保護者のための学習会」を組織し、「個別の支援計画」の作成に関する研究を行った。

(1) 参加者及び開催数

会の名前：神奈川県三浦半島（横須賀地区）学習会

参加総数：52名（途中の参加，辞退者含む）

開催数：全18回（小グループによる開催含む）

参加延べ数：428名（平均参加者数 約24名）

(2) 本会の進め方（概要）

第一期 仲間作り

自己紹介用紙を作って、参加している保護者自身についての紹介をした。

従来は、子どものことを中心に紹介するが、第二期のワークショップに備えて、保護者としての立場ではなく、話し合いを進める自分自身の人生設計（夢）を中心に自己紹介してもらった。

例）将来の夢は？

- ・（自閉症のある）子どもと一緒に世界一周の旅をする。
（この紹介では、意外にも子どもと一緒に旅することが夢だという人が多かった）
- ・ハワイに一人で行って、エステに行くこと。

第二期 ワークショップ

一年目（平成15年度）の研究成果から作成した「前向きな発想」や「地域の広がり」などの仕掛けを取り入れた以下のような形式を提案した。さらに、ワークショップ方式（保護者同士，小グループを作って，ホワイトボードなどを利用しながら話し合う）で，保護者同士がメンターの立場に立てるような仕組みを用いた。（図1，2のような書式で将来の夢からはじめ，上手くいっていること，徐々